

「暫定版」における注意事項

「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」は、令和 3 年度までに「沖縄島編」、「八重山編」、「宮古・久米島編」、「沖縄島周辺諸島及び大東諸島編」の 4 編の作成を予定しており、現在、各編について順次情報収集、調査、解析を進めているところである。このたび一連の作業が完了した宮古・久米島編について、県民の皆さまにいち早くお届けするために【暫定版】を公開する。

暫定公開である理由は、本指針の中核である生物多様性の解析評価手法の特性上、各島毎の解析ではなく、本県全体での解析を行う必要があるためである。また、事業期間中に追加されたデータを加えることで、より解析精度を高めることが想定されている。このような事業デザインのため、今回の宮古・久米島編【暫定版】に掲載された情報は暫定的なものであり、今後沖縄島周辺諸島及び大東諸島編等の情報が加わることで最終版策定まで更新される。

本指針【暫定版】については、上記の事項についてご理解いただき、本県全体の解析が完了し、最終版（令和 3 年度末を予定）が策定されるまでは、引き続き「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998～2000）を参照いただきたい。

2. 生物文化

(1) 目的

沖縄の人々は、自然の中で、自然とともに暮らしてきた。その中で、自分たちの周りの動植物に方言名をつけ、様々な形で利用してきた。これらの方言名や利用法は、暮らしに活かされる知識と知恵として先祖代々引き継がれてきたものであり、島の人々の文化である。このように動植物とつながった文化をここでは生物文化と称することとする。なお、ここでいう「生物文化」の概念は、ユネスコが定義する「生物文化多様性」につながる概念である。

「生物多様性」の保全を考える場合、生物多様性条約の目的に謳われているように、その持続的利用も考慮する必要がある。ここで自然（生物）と人（文化）との関わりの重要性が浮かび上がってくる。

本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりとして生物文化を位置づける。生物文化は各島、各地域で異なる多様な文化であり、生物多様性に生物文化を加えることによって、地域の人々の自然利用や自然観などの手がかりを得ることができる。これらを通じて、各地域での適切な生物多様性保全と持続的な利用の検討に寄与することが期待される。

ここでは、動植物の方言とその利用について、文献に記録されている資料を抜き出し、選別し、環境カルテに記載した。

(2) 方法

文献調査は以下の方法で実施した。

動植物の方言や利用法は字（あざ）ごとで異なる場合が多いため、まず、宮古・久米島地域の市町村内の字ごとに発刊された字誌を中心に文献調査を行い、字特有の生物文化に関する項目を抜き出した。字誌が発刊されていない地域や、字誌は発刊されているものの生物文化に関する内容が見られない地域については、市町村誌(宮古・久米島地域内)の調査を実施した。それでも情報が不足する地域については、宮古・久米島の民俗学的情報に関する専門書も調査対象とした。調査は、上記の字誌等に加えて、市町村誌、専門書等の137冊の文献を対象にした（第4章-5. 参考文献を参照）。

なお、対象とする生物文化に関する記載は字単位のもので野生生物に関わるものに限った。広く他地域にも見られる一般的な内容や農畜産に関する記載は、基本的には対象外と

した。

文献調査によって得られた項目は、基本的には文化庁編『民族文化財の手びき』（昭和54年4月10日第1刷発行）に従って整理分類した。ただし、生物文化に焦点を当てるため、薪、環境、景観、ササ（漁毒）、毘、イザリといった、生物を暮らしに利用する分類項目が上位にくるように分類記号の変更を行った。（表2-2-1参照）。

表2-2-1. 記載内容の分類

分類記号 ※	記載の内容	備考
A	薪、環境、景観	生物多様性と深い繋がりがある
B	ササ、毘、イザリなど(特殊なもの)	
C	衣	染め織り、装身具、身に着ける物(ジューファなど)
D	食	子どもが日常的に食べた植物の実も含める
E	住	建材、屋敷囲
F	民族知識	生物知識、生物季節の知識、生息場所の知識、スグ漁の詳しいもの等
G	生業(交通、運搬も含む)	
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	
J	人の一生、人生儀礼	
K	行事(芸能も含める)	
M	信仰、魔除け、忌避	
N	社会生活	
P	医療(薬草など)	
Q	伝承、俚諺	

※分類記号のA、B、C・・・は優先順位であり、生物多様性との関連性の強い内容をカルテに記載した。

(3) 調査結果

文献調査を通じて、総数 1,768 個の宮古・久米島地域内の生物文化に関する情報を得た。表 2-2-2 に分類ごとの情報数を示す。「P：医療」に関する情報が 251 個と最も多く、次いで、「K：行事(芸能も含める)」に関する情報が 228 個、「D：食」に関する情報が 200 個と多かった。

表 2-2-2. 記載内容毎の収集した情報数

分類記号	記載内容	陸域	海域	合計
A	薪、環境、景観	97	21	118
B	ササ、罨、イザリなど(特殊なもの)	40	53	93
C	衣	164	0	164
D	食	162	38	200
E	住	158	2	160
F	民族知識	70	6	76
G	生業(交通、運搬も含む)	87	42	129
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	50	4	54
J	人の一生、人生儀礼	116	0	116
K	行事(芸能も含める)	223	5	228
M	信仰、魔除け、忌避	68	1	69
N	社会生活	21	4	25
P	医療(薬草など)	242	9	251
Q	伝承、俚諺	80	5	85
合計		1,578	190	1,768

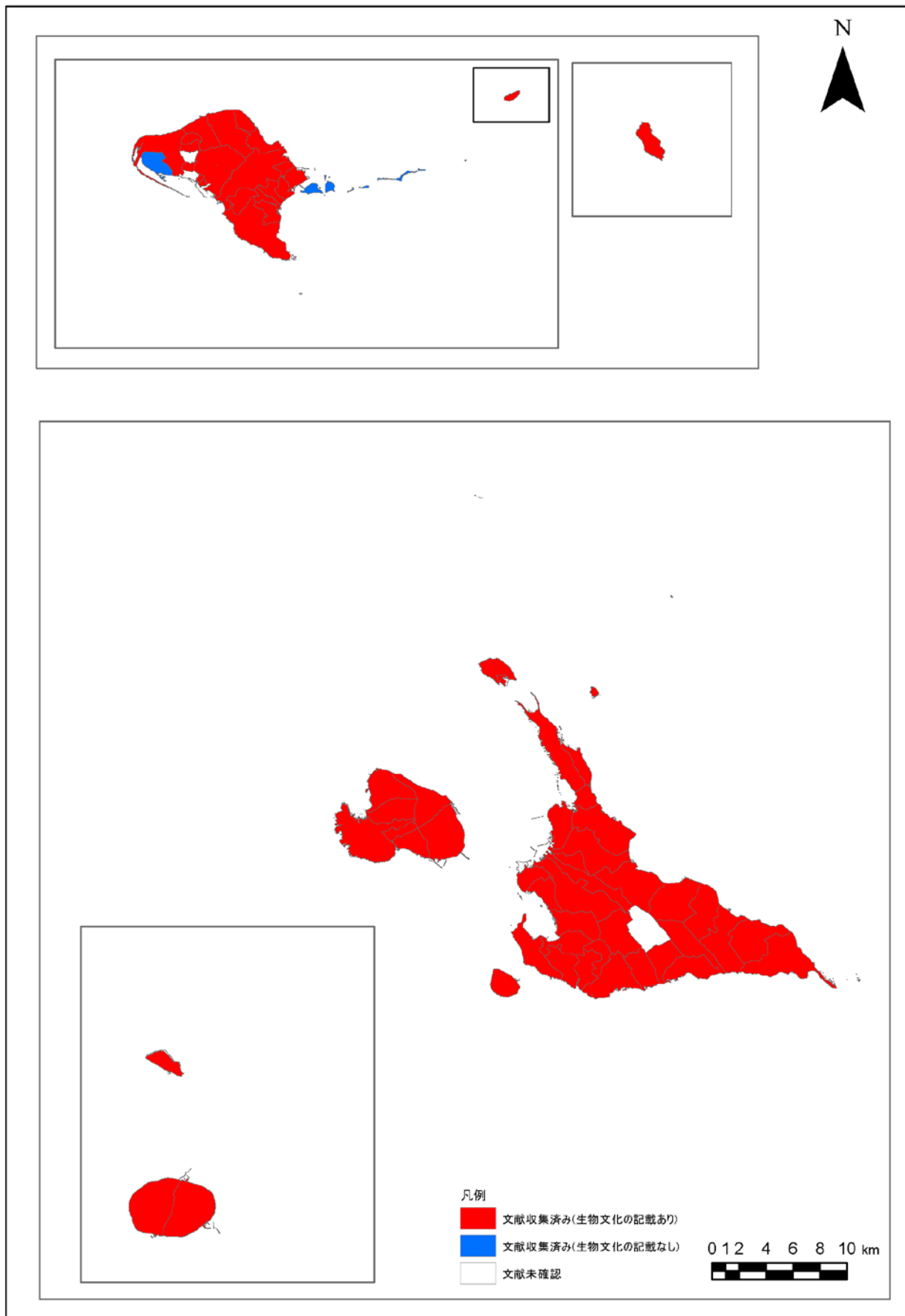


図 2-2-1. 文献の収集・整理状況(陸域)

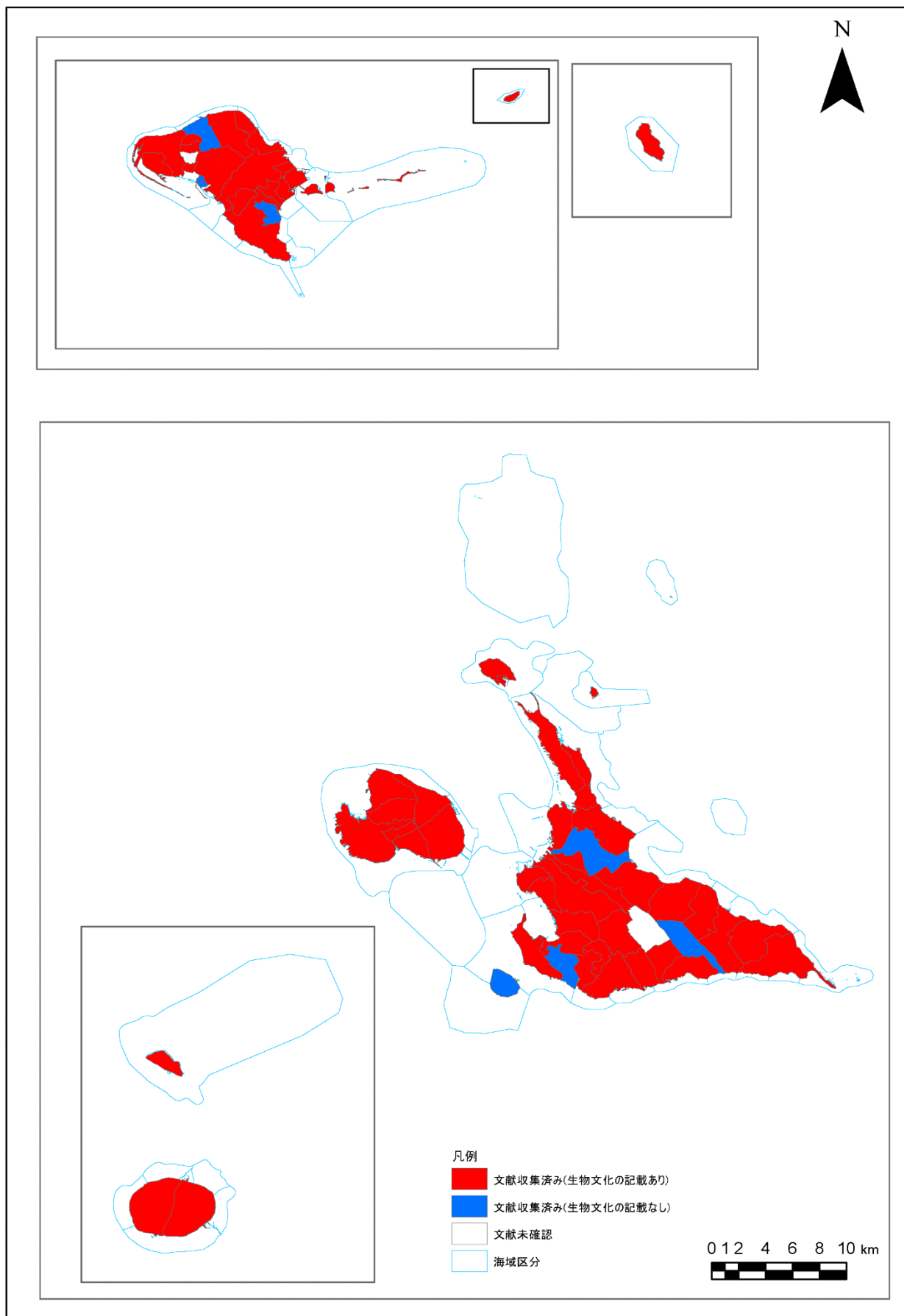


図 2-2-2. 文献の収集・整理状況(海域)